モニタリング調査結果

日　　時：令和 5 年（2023 年）12 月 23 日（土）9:40～15:45
場　　所：三豊市詫間町粟島（調査場所①：西浜の海岸、調査場所②：馬城近くの海岸）
参加者数：10 名

12 月 23 日（土曜日）10 名の方に参加いただき、粟島でビーチクリーンアップモニタリング調査を実施しました。

島内 2 か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と海岸漂着ごみの回収を行いました。

海ごみリーダー養成講座の修了生がキャプテンやキャプテンのサポートを務め、講座の中で学んだ調査時の留意点などについて説明した後、調査を行いながらごみの回収をしました。

1 か所目、西浜の海岸は冬の季節風の影響で多くのごみが漂着していました。個数としては、硬質プラスチック破片（66 個）、プラスチックシートや袋の破片（61 個）、発泡スチロール破片（48 個）と破片が多くなりましたが、破片以外ではカキ養殖用まめ管（45 個）、ペットボトル（28 個）などが多くありました。

2 か所目の馬城近くの海岸で多く回収されたごみは、カキ養殖用まめ管（107 個）、発泡スチロール破片（58 個）、硬質プラスチック破片（40 個）となりました。西浜に比べると、大きなごみは少なかったものの細かくなった発泡スチロールや硬質プラスチックの破片が海岸上部の植生付近に引っかかって残っていました。

参加者からは、「思っていたよりごみが多かった。小さくなったごみも多く、拾うのが大変。」「1 か所目とごみの種類が違う。同じ島でも、海岸、場所が変わればごみの種類が変わる」「このような活動があれば、また参加したい」などの意見がありました。

今回は小学生、高校生、大学生と若い参加者が多く、粟島に来たのが初めての参加者が 6 割以上でした。調査を通して、離島のごみの状況を知り、今後、身近な場所、出来ることから海ごみを減らす取り組みを始めるきっかけになればと思います。

各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目）ｔ＝20 分間	回収量
西浜の海岸	①　硬質プラスチック破片　66 個 ②　プラスチックシートや袋の破片　61 個 ③　発泡スチロール破片　48 個	4 袋（45L ごみ袋） 7.7kg
馬城近くの海岸	①　カキ養殖用まめ管（長さ 1.5ｃｍ）107 個 ②　発泡スチロール破片　58 個 ③　硬質プラスチック破片　40 個	2 袋（45L ごみ袋） 5.7kg

【International Coastal Cleanup(ICC)】
世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】
海岸を見てごみの量を大まかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：西浜の海岸

ICC 調査の様子

細かなごみも回収

海ごみの説明

集合写真

調査場所②：馬城近くの海岸

海ごみリーダー養成講座受講生による説明

クリーンアップの様子

調べた結果を全体で共有